

インド編

伸びる訪日需要、新たな商品企画・販売も

ビジット・ジャパン（VJ）事業での重点20市場の一つであるインドは、2015年における訪日旅行者数が前年比17.2%増の10万3000人に達しました。初めて10万人の万台を突破したインド市場は、今後の更なる訪日需要拡大が期待される有望マーケットとなっています。

2015年の訪日旅行者が10万人に

インドの人口は12億5969万5000人、国民一人当たりのGDPは1627米ドル（何れも2014年）で、インドからの出国者は1662万6000人（2013年）を数えています。

日本政府観光局（JNTO）によると、2015年に日本を訪れたインド人旅行者数は10万3084人に達し、初めて年間10万人の万台を突破しました。これまでの最高だった2014年に



デリーとムンバイの両都市で現地旅行会社にツアーオペレーター品質認証制度及び認証会社も紹介しました。

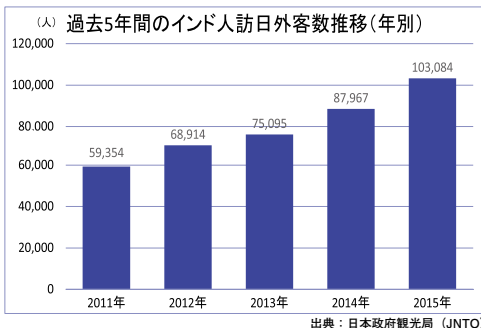
おける8万7967人から17.2%増という高い伸び率を示しており、JNTOでは、訪日旅行プロモーションの効果や円安などの外的要因が後押しする形となり、特に、観光需要が好調に推移したと分析しています。

年間を通じて訪日インド人旅行者の動きを概観すると、インドにおける最大の旅行シーズンである4月～6月に向けて、JNTOが大都市の富裕層を狙ったイメージ広告の提出などを行った結果、訪日旅行需要が喚起され、桜が見ごろとなる4月には、前年同月比23.7%増という2割以上の拡大を示し、12カ月のうち月別の前年比伸び率で最も高い水準となりました。また、月別で最大のピークとなる5月には、初めて単月で1万人を超えるなど、年間を通じて好調な推移を維持しています。

日印関係背景に訪日機運高まる

インド市場に対する訪日旅行プロモーション活動としては、6月と9月にインド側の旅行会社を招請したのをはじめ、8月に実施されたデリーとムンバイでの訪日旅行商品造成の勉強会を通じて、新たな訪日旅行商品も企画・販売されるようになりました。

こうしたプロモーション活動により、



過去3年間のインド人訪日外客数(月別)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
2013年	6,313	4,886	5,845	6,481	8,374	6,984	6,176	5,835	6,372	6,377	6,526	4,926	75,095
2014年	6,887	4,982	6,892	7,440	9,850	7,420	7,239	7,042	7,640	8,203	8,325	6,047	87,967
2015年	7,771	5,982	8,228	9,204	11,328	8,588	8,294	8,680	9,098	9,719	9,507	6,685	103,084

出典：日本政府観光局（JNTO）

アンケートで指摘された改善点

2015年には全ての月で前年の訪日旅行者数を上回る形となっています。また、2015年は日本とインドの両国政府高官による訪日や訪日をはじめ、安倍首相がインドを訪問した際には、インドの高速鉄道計画における日本の新幹線方式が採用されることで合意した事実も報道され、デステイネーションとしての認知度向上や訪日機運の醸成などに、一定の貢献をしたものとみられます。

2015年1月にデリー

で開催されたB to B見本市のS A T T E (South Asia Travel & Tourism Exhibition)と同年2月にムンバイで開催されたB to B見本市のO T M (Outbound Travel Mart)の期間中に実施されたセミナー・商談会で、現地旅行会社を対象にJ A

T Aが実施したアンケート調査によると、「訪日旅行を企画時、問題点改善点要請等ありますか」という問いに対して、回答者69人のうち59人が「はい」と回答。「料金が安い」(16人)、「回答が遅い」(16人)を筆頭に、「食事」(8人)、「言語」(7人)、「情報不足」(6人)、「オペレーターを知らない」(6人)、「支払い条件が厳しい」(6人)などが課題として浮き彫りにされました。

また、日本で人気のある地域としては、「北海道」(29人)、「関西(大阪・京都)」(22人)、「関東(東京)」(19人)が上位を占め、「沖縄」(10人)、「中国・四国(広島)」(6人)などが続く結果となっています。

インドの旅行業団体と意見交換

インドには、インド旅行業協会(T A A I = Travel Agents Association of India)、「インド旅行業連盟(T A F I = Travel Agents Federation of India)」など4団体があり、J A T Aでは昨年2月に、T A A IとT A F Iの両団体と意見交換を行いました。

T A A Iからは、「インド人の訪日旅行に対する関心は高いものの、日本に関わる情報が圧倒的に不足している」という現状が紹介されました。J A T Aに対して、基本的な情報が乏しいことを受けて、相互交流の活性化や相互に情報を蓄積する取り組みなどの必要性が指摘されています。

また、T A F Iからも、ランドオペレーターの情報を含めて日本についての情報が極めて少ないことから、同協会の総会が外国政府観光局との連携により、国外で開催されていることなども踏まえて、日本側からの積極的なアプローチへの期待が表明されました。